

## 第 4 研究会 第二次大戦後日本の教育再建と日系キリスト教

吉田 亮

### 1, 第 4 研究会の経緯:

1990 年、「キリスト教社会問題」研究会(CS、1956 創設)の「海外移民とキリスト教」研究班がそのルーツである。CS 参加者内から、キリスト教と移民問題に研究を開始する事で、CS の守備範囲を拡げようという声が上がったのがきっかけである。その後、北米・ハワイの日本人移民社会においてキリスト教が果たした役割を研究（主に、19 世紀末から 1924 年排日移民法制定までの時期、伝道・教育及び福祉活動を対象）活動が開始された。2000 年代に入り、キリスト教と移民研究は CS から独立し、米大陸・ハワイの日本人移民・日系人社会における諸教育活動の研究に進化していった。その特徴は、主に 1924 年から 1950 年までの時期を扱い、トランスナショナル史(越境史)の視点から考察し、キリスト教以外の宗教(仏教・新宗教)との比較や、北米・ハワイ以外の地域(南米)との比較をも視野に入れた研究に発展していった。2019 年から、CS の一部門に復帰し、現在は、米国大陸・ハワイ日系移民キリスト教史と日本キリスト教史を繋ぐ研究を展開している。

### 2, 本企画のテーマ:

本研究は、越境キリスト教史の一事例として、第二次大戦後(占領期)日本キリスト教の教育再建に、戦前・戦時下の米国日系キリスト教史の担い手達がどのように関与したのかを解明することを課題とするものである。戦時下、大統領令 9066 号によって、約 12 万人の在米日系人が「強制収容」された際、多くの日系・非日系キリスト者が日系被収容者への救済支援活動に関与し、戦後はその担い手達の多くは戦後日本キリスト教の再建に大きく関与することになったことに着目する。ここでいう支援活動とは、強制収容への抗議、被収容者への伝道・教育支援活動、収容所の出所と再定住斡旋他を指す。

研究対象となる担い手達とは、戦時下日系人強制収容に関与した人々が中心である。例えば、日系二世キリスト者、在留日本人(留学生、滞米者)、元在日宣教師、米人聖職者他(在米日系移民伝道)、日本人(日系人)仏教者、その他である。

### 3, 考察点:

考察点は以下の 4 点である。第 1 に、多様な場(学校、家庭、国際会議、学生寮他)、担い手(プロテスタント、カトリック、仏教)の違いの考察。第 2 に、戦前・戦後の連続性を明らかにする。第 3 に、先行研究で未解決である、「文明的闘争」モデル(開明的なキリスト教文明による「野蛮な」異教文明の超克)の再検討を行う。第 4 に、「逆コース」の影響(再軍備化、反共、統制、国家主義化、非民主化)を明らかにする。